

# 早稲田大学 図書館紀要

第 53 号



## 学術資料の電子化

紙屋敦之

新しい資料の発見は、研究者ならずとも心踊るものがある。奈良時代、はるか唐に留学生として渡った井真成の墓誌の発見が、人々の遣唐使への関心を呼び起こしたことは記憶に新しいところである。

昨今、大学図書館・史料館等で貴重資料の電子化、公開が進んでいる。資料は広く人々のあいだに共有され、利用されてこそ価値があり生きてくる。

早稲田大学図書館は、国宝・重要文化財を含む和漢の古典籍を多数所蔵しているが、これまで利用には一定の制約があった。現在、古典籍総合データベース化事業が進行中で、洋学文庫に関してはインターネット上で全文を閲覧できるようにした。このあと、文学・歴史・美術等々の分野に広がっていく。

教科書でおなじみの資料に教室で出会える。学部学生が卒業論文の資料として利用できる。市民が自宅で古典籍に親しめる。海外からの利用も可能である。資料の電子化によりさまざまな可能性が広がるだろう。

2006 年 3 月